

| | |
|-------------------------------|--|
| 大阪有機化学工業株式会社 | |
| 2019年11月期 機関投資家向け決算説明会 質疑応答要旨 | |
| 日時 | 2020年1月10日(金) 13:00~14:05 |
| 場所 | 野村インベスター・リレーションズ株式会社 (東京都中央区日本橋1-9-1; 野村証券本館6階) |
| 当社出席者 | ・取締役(技術本部・事業開発室管掌) 専務執行役員経営企画本部長 安藤 昌幸 ・取締役 執行役員管理本部長 本田 宗一 |
| 参考資料 | 「会社説明会および2019年11月期 決算説明会資料」 (2020年1月9日開示) |

※この資料は、2020年1月10日に開催された、機関投資家向け決算説明会(2019年11月期)における質疑応答の要旨をまとめたものです。

【質疑応答要旨】

| | |
|-----|--|
| Q-1 | 電子材料の営業利益が3Qから4Qで1.5億円増えているが、単に好調であったのか、日韓関係悪化による在庫積み増し分が含まれているのか。 今期の業績予想はそれを踏まえて保守的に出しているのか。 足元の電子材料事業の動向は? |
| A-1 | 韓国の輸出規制については当初心配したが、在庫積み増しの影響でモノマーのオーダーは増えたので、総じて影響はなかった。 今期のトーンについても決して悪くない。統計上世界の半導体の伸びは5%と予測されているが、それに則した状況だととらえている。 |
| Q-2 | EUVレジスト用モノマーや下層膜などの新規分野については、すでに製品を出荷しているのか。市場における位置づけはどうか。 |
| A-2 | EUVレジストモノマーは少量ながら販売を始めている。 下層膜材料についてはこれからサンプルワークを始めていく段階。 シェアについては、まだそれほど大きな市場ではないのでデータがないが、モノマーメーカーとして情報は入ってきているので、サンプルを出している数としては当社が一番多いと思う。 |
| Q-3 | ArFレジストモノマーは、アクリルをベースとしているので得意分野だったと思うが、EUVをやって行く上での強みは。 |
| A-3 | EUVレジストモノマーに関しては、当社は添加剤としてのポジション。当社はこれまでの製品開発を通して、解像度やエッチング耐性などの品質要求に対応するプラットフォームが出来ているのでいろいろな要望がいただけていると思っている。 |

| | |
|-----|---|
| Q-4 | 電子材料セグメントで、表示材料と半導体材料に分けた伸び率を年単位と下期のみの比較で教えてほしい。 |
| A-4 | <p><前年比> 電子材料全体で 3%増。 ・半導体材料 7%増 ・表示材料 15%減</p> <p><下期の前年比> 電子材料全体で 2%減。 ・半導体材料 増減なし ・表示材料 19%減</p> |
| Q-5 | 電子材料の売上を、上期 57 億、下期 59 億と高い伸びを出しているが何が増える前提か |
| A-5 | 伸びを見込んでいるのは大方が ArF。 フォトスペーサーは減少傾向だが、周辺材料にも注力している。 |
| Q-6 | EUUV 材料はどれくらい織り込まれているのか。 |
| A-6 | 数 100kg 単位の生産は行っているが、それが定常化するかどうかはまだ不透明。 EUUV レジストとしては伸びていくが、当社の製品が伸びていくかどうかは織り込めていない。 |
| Q-7 | 5ヶ年計画の投資は総額 200 億円で、今年 3 分の 1 くらい使うが、今年がピークとみているのか。 |
| A-7 | ピークは今年だが、今後電子材料や化成品の設備増強も予定している。 |

以上